

月例研究会（2012年5月23日）

無償労働評価についての研究

—無償労働の社会存続における位置の検討に向けて

橋本美由紀

本報告では、報告者のこれまでの研究の簡単な紹介と「無償労働の社会存続における位置の検討」に向けての作業について報告した。

報告者が行ってきた「無償労働評価についての研究」の課題は、無償労働の評価について、評価方法を中心に検討し、ジェンダー平等をはじめとする社会・経済政策とのつながりに関する論議を整理し、今後の研究の方向を示すことである。この課題の社会的必要性は、(i) 社会や経済の設計において無償労働部分の大きさを確認し、これを社会制度・政策に位置づけること、(ii) 無償労働は、歴史的にも主として女性が担ってきており、女性の地位の向上にとって無償労働の可視化は不可欠であることにある。研究上の必要性としては、研究には国際的に立ち遅れがあり、特に日本では空白状態に近いことである。本論文での研究上の重点は、①無償労働論「一般」ではなく、あくまで無償労働の「評価」に注目し、②無償労働の評価を貨幣額表示と物量表示の両方を含む「評価」としていること、③無償労働評価と諸政策の関連を追求すること、④国際的な先行研究の発掘と内容の把握、整理・特徴づけに重点をおいたことにある。特に③の「無償労働の評価が具体的にどのような政策・計画につながり、それら政策・計画の実施が現実の社会・経済問題の解決

とどう関連するかが明示されていないこと」に焦点を当てたテーマ性を大事にした。下記の(1)–(5)は博士論文としてまとめ、単著として公刊した。以下、それぞれの項目についてタイトルのみを示す。

- (1) 無償労働評価をめぐる研究史の概観
- (2) 無償労働の貨幣評価におけるインプット法—経済企画庁経済研究所および内閣府経済社会総合研究所（ESRI）による推計作業の再検討—
- (3) 無償労働の貨幣評価におけるアウトプット法—インプット法との対比において—
- (4) 無償労働の評価と世帯生産サテライト勘定
- (5) 無償労働評価とジェンダー平等政策とのつながり

本研究の残された課題の1つとして、無償労働の社会存続における位置、市場活動との関係を生産と消費の概念に基づいて理論的に整理することが必要である。これは、誰によっても本格的には行われていない大きな課題である。この課題に近づくために、特に労働という側面から、(i) 無償労働に対する歴史的な概念の形成過程を見ると同時に、(ii) 有償労働と無償労働との間の相互関係に対して現実社会ではどのような意識・対応が見られるのかを知る必要があるだろう。

これらを検討するため、(1) 無償労働をどのように考えるのか、(2) 現実社会において、無償労働あるいはジェンダー平等についてどのような意識を持ち、それはどのように形成されるのかを追究する作業を始めた。

(はしもと・みゆき 法政大学大原社会問題研究所兼任研究員)